

社会資本総合整備計画

住環境および歴史的風致の維持向上(第2期計画)

(事後評価)

彦根市

令和3年6月

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年03月04日

計画の名称	住環境および歴史的風致の維持向上(第2期計画)												
計画の期間	平成28年度 ~ 令和02年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	彦根市												
計画の目標	公営住宅の高齢化対応を進めることにより、快適で安全性の高い住宅を供給する。 空き家対策事業を推進することにより、地域住民の生活環境の保全を図る。 歴史的風致維持向上計画重点区域内において、歴史的風致形成建造物の保存活用ならびに歴史を活かした小公園等の地区施設整備を実施することにより、歴史文化遺産を活かした彦根市らしい住環境の保全を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	293	A	293	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28当初)	中間目標値	最終目標値 (H32末)
1	公営住宅の高齢化対応の割合 高齢化や障害者に配慮した改修を実施した公営住宅の割合 高齢化対応率 = 高齢者や障害者に配慮した改修を実施した公営住宅数 / 全公営住宅数	42%	%	47%
2	市内全域の住宅総数に占める一戸建空き家の割合縮減 市内全域の住宅総数に占める一戸建空き家の割合縮減 一戸建空き家率 = 一戸建空き家数 / 住宅総数 (住宅・土地統計調査結果による)	6%	%	6%
3	街なみ環境の整備による交流人口の増加 旧城下町地区の主要観光施設の入り込み客数の増加 対象とする9施設の入り込み客数の合計を平成27年度入り込み客数より5%増加を目標とする。	100%	%	105%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	彦根市	直接	市	-	-	街なみ環境整備事業（旧 城下町地区）	歴史的風致形成建造物および 地区施設の整備等	彦根市						25	-	
												小計						25	
地域住宅計画に基づ く事業	A15-002	住宅	一般	彦根市	直接	市	-	-	地域住宅計画に基づく事 業（公営住宅等ストック 総合改善事業）	大東団地・中藪団地の個別改 善工事、公営住宅等長寿命化 計画の策定（見直し）	彦根市						251	策定済	
	A15-003	住宅	一般	彦根市	直接	市	-	-	地域住宅計画に基づく事 業（空き家再生等推進事 業）	実態調査、除却	彦根市							17	-
	A15-004	住宅	一般	彦根市	間接	個人	-	-	地域住宅計画に基づく事 業（空き家再生等推進事 業）	活用	彦根市							0	-
												小計						268	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
本市事業担当課および事業に関わる課（建築住宅課および都市計画課、文化財課）にて事後評価を実施	令和3年6月
	公表の方法
	市ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅27戸、改良住宅11戸に対し高齢化対応工事（個別改善工事：手すり等バリアフリー設備設置、水洗化含む）を実施し、高齢化対応率の実績値が53%となった。 ・歴史的風致形成建造物（魚屋町長屋）の建物調査・公有化を実施し、今後の歴史的建造物の保存・活用に繋げることができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅については、快適性および安全性の高い住宅としてストック改善の推進を図ることができた。 ・歴史的風致形成建造物の保存修理後は、案内板の設置等、旧城下町の環境整備を実施することで歴史資源の周遊スポットとして継続的な充実化を図っている。
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・本計画後も引き続き、彦根市公営住宅長寿命化計画に基づき、良質な公営住宅のストックを形成していく。 ・歴史的風致形成建造物の建物調査・公有化により保存を広げ、旧城下町の歴史的風致の向上に努める。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	47%	高齢化や障害者に配慮した改修を実施した公営住宅の割合（高齢化対応率=高齢者や障害者に配慮した改修を実施した公営住宅数/全公営住宅数）
	最終実績値	53%	
2	最終目標値	6%	市内全域の住宅総数に占める一戸建空き家の割合縮減（一戸建空き家率=一戸建空き家数/住宅総数） 住宅・土地統計調査結果による 計画現況値算出から計画終期における実績算出までの間に、住宅総数は2%減少しているものの、一戸建空き家数は12%増加したことから、住宅総数に占める空き家数割合の縮減には至らなかったことが要因である。
	最終実績値	7%	
3	最終目標値	105%	旧城下町地区の対象9施設の入り込み客数をH27年度から5%増加させることを目標とする 最終年度の目標値に対して、新型コロナウイルス感染症の影響により入込客数は前年度比3割減少して目標値を下回ったほか、主要観光施設のうち彦根城では、同様の理由により入山者が5割強減少したことが要因である。計画期間中の入込客数推移としては、令和2年度を除いて順調に推移しており、彦根市と関係機関の連携事業により、コロナ禍においても相応の来訪者を繋ぎとめることには成功したことで客数減少の緩和に努めた。
	最終実績値	87%	

(様式3) 図面 (社会資本整備総合交付金)

